

土岐市総合教育会議 議事録

1 開催日時・場所

令和4年11月28日（金）午後1時30分から
土岐市役所3階 大会議室3AB

2 次第

1. 開会
2. 市長あいさつ
3. 教育長あいさつ
4. 協議・調整事項
部活動の地域移行について
5. その他
6. 閉会

3 資料

全国・岐阜県の部活動地域移行の状況について
部活動地域移行について（土岐市の現状、課題点等）

4 出席者

土岐市長 加藤 淳司
教育委員会 教育長 山田 恭正
教育委員 大野 良子
教育委員 酒井 真吾
教育委員 大橋 廣
教育委員 加藤 幸代

(説明者)

岐阜県中学校運動部活動地域移行推進事業

東濃地区研究調査員

中嶋 信啓

(教育委員会事務局)

事務局長

松原 裕一

教育次長兼教育総務課長

兼教育研究所長兼学びのICT支援室長

河合 広映

生涯学習課長兼読書活動推進室長

安藤 算倫

文化スポーツ課長

神戸 牧子

給食センター所長

林 孝子

図書館長

西部 浩司

教育総務課主幹兼課長補佐

兼学びのICT支援室次長

加藤 貴史

教育総務課課長補佐兼学校教育係長

加藤 望

教育総務課管理主事兼学びのICT支援室 早瀬 浩孝

子育て支援課長
(市長事務部局) 伊藤 智治

市長公室長 水野 健治

政策推進課長 熊崎 直美

政策推進課主幹 浅野 寛泰

政策推進課主査 鈴木 紅美

5 傍聴者 4名

6 議事進行の記録

次ページ以降に記載

◆議事進行の記録

《開会 午後1時30分》

○司会（熊崎政策推進課長）

皆様こんにちは。定刻になりましたので、ただいまより令和4年度土岐市総合教育会議を開催させていただきます。教育委員の皆様におかれましては、大変お忙しいところ、ご出席をいただきまして誠にありがとうございます。

本日の司会進行を務めさせていただきます土岐市政策推進課長の熊崎と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

この会議は、土岐市総合教育会議運営要綱に従い進めさせていただきます。会議の傍聴につきましては、要綱第5条第2項の規定に従いまして、土岐市教育委員会会議規則に基づいて実施することとしております。現在のところ、4名の傍聴者の方がお越しになっていらっしゃいます。

総合教育会議は、学術文化の向上や教育の条件整備など、重点的に講ずべき施策や、児童、生徒等の生命及び身体の保護等緊急の場合に講ずべき措置などについて、首長と教育委員会とが十分な意思疎通を図り、地域の教育課題やあるべき姿を共有し、より一層民意を反映した教育行政を推進するための協議や調整を行う場となっております。

本日は、次第に記載のとおり、「部活動の地域移行について」をテーマに意見交換を頂くこととしております。

それでは、さっそく次第に従いまして進めさせていただきます。

はじめに、市長よりごあいさつ申し上げます。

○市長

皆さんこんにちは。今日は大変お忙しい中、今年度の総合教育会議にご出席いただきまして誠にありがとうございます。

コロナも一段落したかなと思っておりましたらまた少し増加傾向ということで、予断を許さない状況ですが、社会経済活動は少しずつ回っているという実感がございます。

さて、10日程前に東京で全国市長会の社会文教委員会というものがございました。全国市長会には800人程の市長・区長がおりますが、そのうちの80人程度が社会文教委員で、私もその一員として出席いたしました。その際に、文部科学省から初等中等教育の現状の教育施策の動向についての話があり、興味深く聞きましたところ、現状の課題が大きく5つあるとのことでした。1つはGIGAスクール構想です。これは様々な課題がありますが、岐阜県の例をみますとICT支援員がやや少ないというデータがあるようです。2つ目が部活動の地域移行、今日のテーマでございます。3つ目が学校における先生方の働き方改革、4つ目がいじめや不登校、ヤングケアラーへの対応策でございます。そして、5つ目がコミュニティスクールです。現状の課題はこのような形で整理されておりました。

本日は、部活動の地域移行について意見交換をさせていただきますが、その話の中で、ただ単に中学生の部活動を移行するというだけではなく、生涯教育の一環として、その地域全体におけるスポーツや芸術の活動を支える環境をどのように作っていくのかという視点がありました。今

日の会議は、あくまでも中学生の地域移行についてですけれども、その先には広く市民全体の振興策というものも視野に入れる必要があると感じました。部活動の地域移行については、県も力を入れていただいているところですが、重点的に3か年で環境を整備していくという目標もあるようですので、引き続き、教育委員の皆様方と連携を取りながら、どのような方法が土岐市には一番良いのかを考えていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひいたしまして、冒頭の私のあいさつとさせていただきます。どうぞよろしくお願ひします。

○司会（熊崎政策推進課長）

ありがとうございます。続きまして、山田教育長からごあいさつをいただきます。

○山田教育長

皆様、改めましてこんにちは。今日は市長事務部局の方、また、市長の方で総合教育会議を設定していただき、ありがとうございます。

今、市長のごあいさつの中で今日的課題を5つ教えていただきましたが、その中で、私ども土岐市教育委員会も全く手付かずであり、これから方向を見出していこうという部活動地域移行の問題についてです。これからスタートしていくにあたり、この会議を一つの軸にさせていただきながら、市長にもお力を借りて良い形にしていきたいと思っております。生涯学習全体という捉え方で、と市長からお話いただいたことも含め、教育委員会の役目はかなり大きいと感じております。

先般、中学生の保護者の方と話す機会があり、「以前は中学校の部活動が強制加入だったので、どうしても形なりにもどこかの部に所属しないとイケなかったが、私の子どもは部活動にない活動に興味があったので、なかなか中学校の部活動に目が向かず、中途半端だった」という話を聞きました。しかし、後で説明があると思いますが、土岐市も任意加入という形にさせていただいたところ、「子どもがほっとした」とおっしゃいました。なるほど、そういうこともあるのかと感じました。その反面、これも後で説明があると思いますが、土日に何も取り組んでない中学生も結構いるという実態調査の結果も出ておまして、大きな温度差ができており、中学生の時期にこれで良いのかということも現実的な問題としてありますので、総合的に考えながら中学校の部活動がどうあるべきか、皆様方にご意見をいただきながら、また、市長にご示唆いただきながら進めていけたら良いと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。

○司会（熊崎政策推進課長）

ありがとうございます。

それでは、次第4 協議調整事項に入って参りたいと思います。

本日のテーマですが、部活動の地域移行についてでございます。学校の部活動は、学校教育の一環として、スポーツや文化、科学などに親しむことで、責任感や連帯感、自主性の育成や人間関係の構築など、多様な学びの場となっております。しかし、少子化が進む中での活動の継続や、学校における働き方改革などにより、従来の学校を中心とした運営は困難になりつつあります。このことから国は、地域と連携した活動への移行を進めており、中学校の部活動は大きな変化を迎えようとしております。土岐市におきましても、今後の部活動の地域移行について検討を深めていくにあたって、本日は、土岐市における現状と課題を皆さんで共有する場としたいと思っております。

おります。

まずは、意見交換に入ります前に、部活動の位置付けや部活動の地域移行とはどのようなことなのか、さらには、県内各地区における地域移行の状況につきまして、岐阜県中学校運動部活動地域移行推進事業の東濃地区研究調査員でいらっしゃいます中嶋信啓様からご説明をいただきたいと思います。中嶋様よろしくお願ひいたします。

○岐阜県中学校運動部活動地域移行推進事業 東濃地区研究調査員 中嶋信啓 氏
【資料「全国・岐阜県の部活動地域移行の状況について」に基づき説明】

○司会（熊崎政策推進課長）

中嶋先生、ありがとうございます。

子どもたちを中心に考え、将来にわたってスポーツや文化活動に継続して親しむことができる環境の整備、機会の確保が重要な課題であること、そのために地域で活動できる環境を整える必要があり、国や県において地域への移行に向けた取り組みが進められていることをご説明いただきました。また、各地域の実情が異なり、検討すべき課題が多くあることもわかりました。

それでは続きまして、土岐市における部活動の現状と課題について、教育委員会事務局からご説明をいただきたいと思います。よろしくお願ひいたします。

○教育委員会事務局（加藤教育総務課課長補佐兼学校教育係長）
【資料「部活動地域移行について（土岐市の現状、課題点等）」に基づいて説明】

○司会（熊崎政策推進課長）

ありがとうございます。

ただいま、ご説明いただきました土岐市における部活動の現状や課題について、様々なご意見やご感想をお持ちになられたかと思ひます。今後の部活動地域移行に向けたご意見やご感想を頂き、課題を共有させていただきまして、次に繋いでいきたいと思ひております。

ご意見がございましたらぜひお願ひします。

○大橋教育委員

説明を聞かせていただきまして、とてもよくわかりました。実は今日、部活動の在り方について総合教育会議が行われるということで、私も少なからずスポーツに関心を持っておりまして、様々なことを調べてきました。そこで、なるほど、そうなんだと思うこともたくさんありましたが、問題も多くあることがわかりました。しかし、現在の実情や問題点のほかにも、私が疑問に思っていたことが、先ほどの中嶋先生の話で全部報告されておりまして、すごいなあと思ひて聞いておりました。それから、加藤先生の話の土岐市の現状についても、私も少し調べてみましたが、本当にすべて把握されており、さて今日どのようにこの会議が運営されるだろうというぐらひすべての情報が出てしまったようです。

加藤先生に少し聞きたいことがあります。土岐市の今後のことについて、先ほどの説明の中にありました土岐市の部活動の地域への移行に向けての検討委員会があり、現在までに2回実施されたようですが、構成員はどのようになっていますか。

○教育委員会事務局（加藤教育総務課課長補佐兼学校教育係長）
種目協会の代表者、土岐市の例えばソフトボール協会などの代表者です。

○大橋教育委員
体育協会のメンバーですか。

○教育委員会事務局（加藤教育総務課課長補佐兼学校教育係長）
必ず体育協会のメンバーになっているかどうかは分かりませんが、種目協会の代表者6～7名の委員と、アドバイスを頂くために大学教授、その他に中体連の代表として担当校長と中体連の理事長に参加していただいています。

○大橋教育委員
他にはいませんか。

○教育委員会事務局（加藤教育総務課課長補佐兼学校教育係長）
教育委員会事務局が参加していますが、今後の検討委員会の方向性や構成メンバーについても再検討していかなければならないと考えています。

○大橋教育委員
指導者研修は、何回実施しましたか。

○教育委員会事務局（加藤教育総務課課長補佐兼学校教育係長）
今年度に1回行っています。

○大橋教育委員
それはどのように実施しましたか。

○教育委員会事務局（加藤教育総務課課長補佐兼学校教育係長）
保護者クラブの指導者に開催の案内をして、セラトピア土岐で夜間に開催いたしました。内容につきましては、先ほど申し上げた大学の教授に今後のクラブの運営の在り方について情報提供いただいたり、以前多治見高校の硬式野球部の監督をされていた先生にハラスメントにかかる講演をしていただいたりしました。

○大橋教育委員
ありがとうございます。先ほどの中嶋先生の説明の中にも、これからどうしたらよいのだろうか、という問題がとて多く出てきました。私も勉強してわかりましたが、父兄の中に中学校の部活動がなくなってしまうことへの不安が多いようです。

また、先生の発表にありました今年6月6日にスポーツ庁の室伏長官に出された提言についても、調べてみましたが、あまりにも簡単な記載となっておりまして、それではどうするか、ということがなかなか書かれていません。また、地域によっても状況の違いが大きく、一概にこうだ

からこれが良いとか、こうでなければならぬということが言えないことがこの問題ではないでしょうか。土岐市には、スポーツが好きで上手な市長がいらっしゃいますが、市によっても違いますし、県によっても違います。例えば、岐阜県内で、既にモデル校として地域移行を実施している羽島市の事例が新聞に掲載されていました。羽島市の竹鼻中学校の陸上部を指導している先生は、実は私の2年先輩で、とても高齢ですが元気はつらつと指導していらっしゃいます。そこで、その先生にどうですかと電話で聞いてみたら、楽しいと言っていました。本人は、陸上競技で国体出場の経験もあり、素晴らしい指導者ですが、本職は教員ではありません。保健体育の先生でもないのに、陸上が好きで好きで仕方がないので、時間があるたびに竹鼻中学校へ行って教えています。そのような素晴らしい指導者がいらっしゃれば、部活動の地域移行は本当にうまくいくと思いますが、そのためには実際に各地域にそのような指導者を備える必要があります。先ほどの加藤先生の説明にありましたが、土岐市の指導者は74人で、種目がどれだけ分散しているのかわかりませんが、手を挙げていただいた指導者がそれだけ多くいるということはとても素晴らしいことだと思っていますし、意外と土岐市は良いなと思います。

しかし、土岐市がどのように中学生や小学校高学年にスポーツや文化活動を提供できるような形に持っていくかという5年後10年後のビジョンが、今日出てくると良いなと思っていますが、中嶋先生、5年後10年後のビジョンとして、どのようなものが理想なのでしょうか。

○岐阜県中学校運動部活動地域移行推進事業 東濃地区研究調査員 中嶋信啓 氏

大橋委員が言われたように、地域の状況は大きく異なります。土岐市や多治見市など東濃地区が早くから地域移行して成功した要因は、保護者クラブにしたことです。保護者は、自分の子どもが保護者クラブに入っているので、指導者がいなければ探してくる、というように、一生懸命に関わってくださったため、約20年間続いてきたという良いところがあると思います。ただ、やがてこれも難しくなると思います。

次に考えられるのは、一度うまくいかなかった総合型のようなクラブにすることです。ただし、やはりいくつかの市でやろうとしてうまくいかなかった実例がありますので、難しいところがありますが、もう一度見直しても良いのではないかとこのように私も考えを変えていますし、検討委員会に参加されている大学の先生も一つの例として出されています。

他にも私の資料の中にいくつかの形を記載してありますが、例えば、どこか民間事業者に預ける場合は、組織的にはしっかりしていますが、かなりお金の負担があると考えられます。

今後、おそらく生徒数が少なくなっていく中で、今の良さを活かして保護者クラブで運営しながら、合併して一つになっていくうえで、形をどのようにコントロールしていくかということについて、私自身もこれが良いと言にくいのが正直なところです。

○大橋教育委員

ありがとうございます。

○司会（熊崎政策推進課長）

大野委員いかがでしょうか。

○大野教育委員

私はソフトテニス部の現状を調べさせていただきました。現在、令和4年4月の調査よりやはり部員数は少なくなっているようで、土岐津中学校が男子15人でそのうち保護者クラブに入っているのが9人だそうです。駄知中学校は1年生3人、2年生1人の4人だそうです。泉中学校は、16人の部員がいますけれども保護者クラブに入っているのは4人とのことです。

そこで、先月10月16日に、保護者クラブがある全ての中学校の男子ソフトテニス部の生徒が、土岐津中学校に集まり、午前は練習、午後は練習試合をするという合同練習会が立ち上がったようです。11月は先週か先々週の土曜日に合同練習を行うというように、意識付けというか、活動が始まっているようです。お金のことはありますが、学校施設を使っており、教室には入らないので、うまく活動ができています。ただ、土岐津中学校の生徒はいいですが、その他の中学校の生徒については保護者による送迎の手間があるだろうと思います。

しかし、部活動だけではなく保護者クラブでも活動したい子どもを応援したいということで、学校、家族、地域がこのような活動をしているのだろうと思います。駄知中学校では、生徒が4人しかいないので、先輩や保護者が来ると子どもより大人の方が3倍ぐらい多いという現象が起きているそうです。平日の夜は、下石町の総合グラウンドを使って活動しているとのことです。

人数が多くなればなるほど会場の費用負担も少ないということで、現在30人程が合同の保護者クラブとして土日のどちらかで活動しているという現状を聞きまして、これからはこういう時代なんだなと感じました。特に、駄知中学校は部員が4人しかおらず2組できるかどうかという状況です。資料にある部活動ごとの生徒数には3年生が書いてありますが、もう3年生は保護者クラブを引退しています。生徒数の減少に対して市としてどのように対応していくかという問題があります。

また、先ほど言われたように指導者の問題もあり、一本化しなければならぬことが課題だと聞いています。

このように、活動しながら、ああしよう、こうしよう、と皆さんがプラス思考の考えを持っていらっしゃることを感じました。私たちの子どものときは1学年必ず10人はいましたからレギュラー争いが大変でしたが、今はそうではなくて頼むから来てという状況です。合同クラブになり何十人か集まると、より頑張ろうという意識になるようです。現状をお伝えさせていただきました。

○酒井教育委員

以前、海津市の勉強会に参加してきました、ちょうど部活動の地域移行について多治見市の事例を聞きました。多治見市は今もまだ部活動の強制加入が続いており、全生徒が45分だけでも活動し、その間は先生が指導しており、その後は地域の指導者が来て引き続き活動したい子どもだけ活動するという取り組みをしていると聞きました。だいぶ昔から取り組んでおり、発表もとてもわかりやすく、市として、そうするよう中学校に言っているので、会社の組織と同じで上が言うならそうするしかないということで、わかりやすいなと思って聞いていました。

私は、デメリットがたくさんあることはわかりますが、保護者負担があってもなくても、10人いれば1人ぐらいは、うちの息子が試合に出られないとか、あの人がかうだとか文句を言う親がいるかと思いますが、そのような保護者にスポットを当てていると何も進みません。私が心配していることは、多分各家庭でもあると思いますが、子どもが早く家に帰ってきて寝転がってスマ

ホばかりを見ている状況です。私は親心として、大それた選手になってほしいとは思っていませんが、一週間のうち確実に半分の日数以上は、スポーツや文化に汗を流してほしいなと思っています。ランニングを1時間しなければならない、バスケットボール部に入っている生徒でしたらパスまわしを1時間しなければならない、などということだけでも良いので、多治見市みたいに土岐市も学校にこれだけはやってくださいと言って、学校側で45分から50分の運動を確保するようなことが、まず基本的に大事なのではないかと思います。

一般的に、優秀な指導者を選定するのは、多分ダイヤモンドを見つけるぐらい難しいことだと思います。

何が大事かを考えると、私は、親の負担や指導者よりも、先生が45分だけでも子どものランニングする姿を見ていると良いと思います。土岐市の部活動は強制加入ではなくなってしまうので戻すことは難しいと思いますが、部活動に加入している生徒だけでもできることから始めた方が良いと思います。

それから、先ほどの資料にあった部活動に所属しない理由で「特に理由はない」の181人は、本当はやらなくていいならやりたくない、楽な方がいいというだけのことだと思うし、おそらく親も面倒なのでどうしても入りなさいとは言わないと思います。また、駄知地区は外国人の方も多くなってきて、部活動制度の理解が十分でない外国人の親のサポートも必要です。やはり、私たちのときのようにはいかないので、もう少し敷居を下げると良いと思います。

また、合同チームで試合に出る環境が整っていないようですが、結構難しいことなのでしょうか。子どもたちがやりたいことなのに、規則が整備されてないのでできません、というのはかわいそうだなあというのが率直な思いです。

問題は起こりますので、目の前で起きたことを解決していくしかないというだけのことなので、子どもにスポーツができる場を与えてあげたいなと思います。

○加藤教育委員

私も部活動は残してほしいなと思っています。運動の得意・不得意にかかわらず、子どもが疲れて帰ってくる姿を見ると、親もほっとするし、子どもの体力もつくと思います。

クラブに入らない理由として他のお母さん方と一番話すことは、やはり役員の負担です。しかし、小学生のうちからアプローチしていくことは、とても良いことだと思います。親も子も慣れだと思っています。役員で夜や日曜日に活動することも慣れていくと抵抗が少なくなると思いますし、自分の子がやりたいと言えば応援する親がほとんどだと思いますので、中学生になって急に活動が始まるのではなく、子どもが小さなときから活動に出会える機会が増えると良いと思います。

○大橋教育委員

酒井委員の話も、大野委員の話もとてもよくわかります。例えば、指導者の問題、施設の問題、対価の問題、経費の問題など言い出したら、1日中会議をしても問題が出るだけで、解決にはならないと思います。最初に市長が、子どもたちも市民も含め、生涯にわたって健康な生活を送るための基礎が小学生や中学生の時期に必要な話がありましたが、スポーツ庁、文化庁もそのように進めています。

やはり先ほど申し上げたように、部活動の地域移行をこれからどのように進めていくかということ考えたときに、検討委員会が重要になってきます。ちなみに、現在の検討委員会の正式な

名称は何ですか。

○教育委員会事務局（加藤教育総務課課長補佐兼学校教育係長）
部活動地域移行検討委員会です。

○大橋教育委員

各市そのように検討委員会を作り始めていますね。

スポーツ庁や文化庁は、令和4～6年の3年間できちんとした移行措置をすることが望ましいとしており、移行せざるを得ないため今日もテーマにしていると思いますが、やはり検討委員会で、今回のアンケートのような問題点ではなくて、令和4年度はこれを解決するといったようなきちんとした議論ができるようにすべきではないでしょうか。

私も昔からスポーツが大好きでいろいろやっていますが、いまの中学校の部活動が週に3回で30分しかないのは部活動といえないだろうと感じます。30分では、始めましょう、準備体操しましょう、帰りましょうで終わってしまいます。それで堂々と部活動をやっていますといえることが私はおかしいなと思います。これを含めて考えると、やはりこれからどうするかを徹底的に検討していかなければならないと思います。

酒井委員がおっしゃった指導者の確保はとても難しいと思いますが、体育協会というスポーツ団体には、各種目に人がいて、経験者もたくさんいらっしゃいますので、連携をとらなければならぬだろうし、施設もやはりきちんとしたものを各地域に整備していただきたいと思います。例えば、ドイツは50年前にゴールデンプランといってスポーツや学校体育は地域で行うということで、完全天然芝のフィールドを整備し、各地域からみんなが集まってきて各種目をやっています。学校単位ではないです。

市長にお願いしたいのは、例えば、将来、土岐市は日本で初めてすごいことをやったなあと言われるようにすることです。市が指導者のお金も出して、すべてやって、どうだというぐらいのことです。こんなことお願いしてはいけないとは思いますが、そのようなことができるぐらい検討委員会で良い案を作って市に出していただけると良いと思います。

今日の会議で出た意見だけでも何十と問題がある中で、結論を出すことはできないと思います。そのため、きちんとした検討委員会で回数を重ねて検討していくことによって、土岐市の部活動の在り方、移行の在り方だけでなく、5年後10年後に子どもたちが喜んでスポーツや文化活動ができるようにしていけると良いと思います。

初めはスポーツ庁だけでしたが、最近は文化庁も加わって部活動の地域移行の考えを示しています。それを見るとやはり文化活動を含めた部活動の地域移行を検討委員会で議論し、何か良い案を出していただけると良いと思います。私も今日は何か良い案が出せるよう一生懸命考えていましたが、出てこないのので、加藤先生にお願いして、市も含めた検討委員会ができないかということをご提案したいと思います。以上です。

○市長

今、大橋委員がおっしゃったようなことですが、中嶋先生に作っていただいた資料に子どもたちが将来にわたって活動できる仕組みと、中心となる組織が必要ということが書いてあり、まさにこの仕組みづくりと組織づくりの二つが皆様がおっしゃったことを包括しているのかなという

気がしていますが、これがなかなか難しく、かつて地域型スポーツクラブの取り組みをしたときも、結局はなかなかしっかりした組織が作れませんでした。しかし、今のタイミングですと、名称は別としても、そのような類の組織をしっかり作らなければいけないときではないかという問題意識を私は持っています。ただ、誰が中心になり、どのように作るのか、どのような仕組みにするかということを話し合うことは委員の皆様がおっしゃったように、様々な問題をはらんでいると思います。そのような観点で、先ほど検討委員会のことも随分大橋委員がおっしゃいましたが、まさに検討委員会で議論していただきたいことはこの二つに包含されていると思っています。

○酒井教育委員

北方町の運営マネージャーは、お金を払ってお願いしているのですか。または、一般の人におん願ひしていますか、それとも、町役場が担っていますか。

○岐阜県中学校運動部活動地域移行推進事業 東濃地区研究調査員 中嶋信啓 氏

雇用などの体制については、そこまで質問をしていませんので掘んでおりません。

○酒井教育委員

有能な運営マネージャーが確保できれば、うまくいきそうですね。

○司会（熊崎政策推進課長）

ただ今、将来のこととか、仕組みや体制について、検討していくことが必要ではないかというようなお話がありましたが、それを受けて何かご意見ございましたらお願いいたします。

○市長

段階があつて、例えば、先ほど最終的に中学校の部活動がなくなってしまうのではないかという話もあったということですが、流れとしては最終的にはそうなるのだらうと思います。スケジュール的に、それがいつになるかはわかりませんが、地域が全て担うことになるのだらうと考えられます。しかし、今の段階では、休日の部活動に代わる保護者クラブが先行して運営されており、その部分をどうしていこうかということに絞り込まなければ、問題が大きくなりますので、少し絞り込んだほうが良いという気がします。

○大橋教育委員

先ほど申し上げた羽島市は、市にコーディネートできる人がいて、市がかなり関与しているようです。スポーツ庁のホームページを見ていると、コーディネーターや組織を作るよう書かれています。運営委員会の中にマネージャーやコーディネーターがいる組織ができれば、意外と先が見えてくるのではないかと思いますし、そのような市が出てきています。そのようなことも含め、今の市長の話のように、土岐市がどこに視点を当てて早めに作っていけるかということが大事です。だんだん見えてきた感じがしますね。

○市長

ただ、大野委員がおっしゃったように、部活動の生徒数がだんだん減っていき、学校単位でチ

ームが作れず、合同チームを作るような状況になると、基本的に学校ごとにある現在の保護者クラブが成り立たなくなってしまう、その場合にどういった枠組みで保護者クラブにしていくかということも一つの問題です。

○大橋教育委員

また、先ほど加藤先生がおっしゃっていた、学校の中にも部活動を指導したい先生もおり、兼職兼業制度を利用して先生が地域の指導者になることで、時間当たりの単価をもらえるといったこともあります。中学校の部活動が好きな先生から部活動を取ってしまうのも問題であり、なかなか難しいと思います。

○司会（熊崎政策推進課長）

様々なご意見をいただき、ありがとうございます。時間も差し迫ってきておりますけれども、皆さん他にご意見等ございましたら、この場でお願ひしたいと思ひます。意見を共有させていただいて、次につないでいきたいと思ひます。いかがでしょうか。

よろしいでしょうか。

本日の会議で、学校の中で部活動の時間が1回30分で週3回というのはどうなんだというご意見や、部活動がなくなってしまうのではないかと、少子化の中で子どもが減っていったときに保護者クラブはどうなるのか、そのようなことを議論していく場が必要ではないかということや、そのような組織的な枠組み、体制、仕組みづくりの具体的なご意見をいただきました。まだまだ意見が出尽くしてない部分もあるかと思ひますが、今日のご意見をいただいた中で、最終的にこれから検討を進めていくための材料として、いただいた課題などを整理していきたいと思ひますので、よろしくお願ひいたします。

それでは最後に、本日の会議を踏まえまして、教育長と市長からそれぞれお話をいただきたいと思ひますがよろしいでしょうか。

○山田教育長

初めにお礼ですが、市長、今日はありがとうございます。教育委員の皆様方にもそれぞれの立場で意見を言っていました。酒井委員がおっしゃっていましたが、やはり今の子どもは汗をかく機会が少ないと感じています。以前、市長も子どもたちの体力低下について心配していらっしやいましたが、やはり、大橋委員がおっしゃっていたように、私たちが育ってきたことを思ひますと、平日は暗くなるまで、土日は朝から部活動をしていました。今の保護者の皆さんもそういう過程の中で生活していらっしやった方ですので、アンケートを見るとやはり子どもたちに取り組んでほしいと願っていらっしやるようです。そのようなことも踏まえながら、現状は変わっていますので、今日いただいたご意見をもとに教育委員会と協議していきたいと思ひます。

教育委員会が思ひていることは、やはり人で決まる部分がありまして、市教育委員会の今いる職員で、コーディネートをやっていけば良いと言われればそうですが、なかなかそういうわけにいかない現実がありますので、まず、特化した人でコーディネートをしていく体制づくりをし、3年間で土岐市の色が出てくる部活動の地域移行にしていきたいということと、大野委員が先ほどおっしゃいましたが、生徒数が減っていくなど、様々に状況が変わっていきますので、進めながら変えていける形にもしていかなければならないということです。今日のご意見をもとに来年の

スタートをスムーズにできるよう計画を立てていきたいと思っております。また、教育委員会の中でもご意見をいただきながら進めて参りたいと思います。市長にも報告させていただきながら進めていきたいと思っておりますのでどうぞよろしくお願いいたします。今日はありがとうございます。

○市長

今日はありがとうございました。子どもたちの視点に立つと、我々の時代は、大野委員も一緒ですけども、バスケットボール部は朝7時半から授業が始まる8時半まで自主的に練習をしていました。先ほど酒井委員もおっしゃったように、今はなんとなく子どもの熱量が少なくなっているという印象もあります。しかし、そのような中で、子どもたちにいかにやる気を持たせて活動していくかという舞台を作ることが我々の仕事だと思っておりますので、引き続き、皆さん方のご意見をいただきながら、しっかり検討していきたいと思っております。今日はありがとうございました。

○司会（熊崎政策推進課長）

ありがとうございます。本日は貴重なご意見を多数いただきましてありがとうございます。皆様からいただきましたご意見や課題、アイデアを共有することが今後の部活動の地域移行に向けた取り組みの第一歩であると考えております。本日の会議を経て見えてきた課題について、今後検討を行って参ります。また、市長事務局と教育委員会が連携をとりながら体制づくりなどを進めて参りたいと思っております。

続きまして、次第の5 その他についてですが、何かございますか。特にないようでありましたら事務局から連絡させていただきたいと思っております。

次回の総合教育会議については、来年度になってからの開催を予定しております。ただし、重点的に講ずべき事項や施策、緊急性のある問題が発生した場合など、市長と教育委員会が特に意思疎通が必要な場合は随時開催することとなります。その際は、またご連絡させていただきますので皆様よろしくお願いいたします。

本日の議事録につきましては、事務局の方で作成したのち、会議構成員の皆様にご確認をいただきましてから公表という予定をしておりますのでお願いいたします。

その他ご意見などございますか。それでは、これをもちまして本日の会議は閉会とさせていただきます。ありがとうございました。

《閉会 午後3時00分》